

令和4年度の学校評価（年度末評価）

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>『クリティカルシンキングの育成』                  ・授業力の向上と確かな学力の定着 ・キャリア教育の一層の充実 ・望ましい学習習慣、生活習慣の確立                  ・教職員が健康的に教育活動に従事できる環境の整備 ・帰属意識と自己有用感の涵養</p>				
<p>項目（担当）</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>留意事項（達成基準を含む）</p>	<p>本年度の反省と来年度に向けての改善策</p>	<p>本年度評価 （A B C D）</p>
<p>P T A活動 （総務部）</p>	<p>P T Aとの連携強化</p>	<p>学校における諸活動に対し、P T Aとの連携を密にし、積極的な活動を推進する。</p>	<p>P T Aとの連携強化のため情報発信を積極的に行う。                  A：学校における諸活動を発信した 100%                  B：学校における諸活動を発信した 75%以上                  C：学校における諸活動を発信した 50%以上                  D：学校における諸活動を発信した 50%未満</p>	<p>P T A総会、授業参観は感染症対策を行い予定通り実施できた。きずなネットではクラスごとの連絡が可能となった。今後はTeams も併用し、情報発信の方法を改善していく。</p>	<p>B</p>
<p>学習指導 （教務部）</p>	<p>観点別評価による学習評価の充実</p>	<p>定期考査の工夫・改善を実践する。                  3観点の資質・能力を図るための評価資料の設定を推進する。</p>	<p>各教科と連携し、観点別評価の充実を図る。                  A：充実を図ることができた教科が 100%                  B：充実を図ることができた教科が 75%以上                  C：充実を図ることができた教科が 50%以上                  D：充実を図ることができた教科が 50%未満</p>	<p>定期考査や学習テストに出題問題ごと評価観点を記載し、生徒にも観点別学習評価の区分を分かるようにした。評価資料の充実を図るために各教科評価方法の検討を重ねたが、観点別評価について課題が残った。</p>	<p>B</p>
<p>生徒指導 （生徒指導部）</p>	<p>携帯電話・スマートフォンにおけるマナー指導の充実</p>	<p>全教職員による声かけ指導を推進する。                  生徒自らの行動を振り返る機会を学期ごとに設定する。</p>	<p>アンケートを実施し、自らの使い方を振り返らせる。                  A：適切に利用できた生徒が 80%以上                  B：適切に利用できた生徒が 75%以上                  C：適切に利用できた生徒が 50%以上                  D：適切に利用できた生徒が 50%未満</p>	<p>本年度 SNS に関するトラブルは無かったが、S T前・終礼後の使用許可時間においてゲームをしていたり、歩きスマホをしている生徒もおり、使い方の面で今後も継続的な指導をしていきたい。</p>	<p>B</p>
<p>生徒会活動 （生徒会部）</p>	<p>生徒主体の生徒会活動の構築</p>	<p>生徒会執行部を中心として生徒の意見を生かしながら、各種行事の企画・改善を図る。</p>	<p>アンケート等を活用し、生徒の意見を集約する。                  A：80%の行事が生徒主体で企画・改善できた                  B：65%の行事が生徒主体で企画・改善できた                  C：50%の行事が生徒主体で企画・改善できた                  D：35%の行事が生徒主体で企画・改善できた</p>	<p>生徒会執行部の意向を図りながら行事の準備を行った。行事後においては反省点をまとめ、翌年に生かすための話し合いなどを行ったが、生徒主体とするためにはまだ改善や工夫が必要と感じられた。</p>	<p>B</p>
<p>教育相談 （教育相談部）</p>	<p>問題を抱える生徒の早期発見と個々の生徒に対し、適切な対応とサポートの実施</p>	<p>教職員の連携と協力体制を構築する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果的活用と外部機関等との連携を強化する。</p>	<p>教育相談に関する様々な情報を発信し、正確な状況把握と分析に努める。                  A：生徒自らが教員へ相談し、的確な対応ができた                  B：正確な生徒情報を把握し、サポートできた                  C：生徒情報のある程度把握し、傾聴できた                  D：上記A～Cが実践できなかつた</p>	<p>学年及び担任からの生徒情報をスクールカウンセラーに繋げるなど、適切な対応ができた生徒もいる。しかし、外部機関とも連携しながらではあるが、慎重に支援を行う必要のある生徒が増え、支援体制の改善の必要性を感じた。</p>	<p>B</p>

保健・清掃指導 (保健厚生部)	感染症対策に対する生徒の実践的行動の育成のための環境づくり	健康観察の徹底と ICT の活用 生徒による感染症予防のための環境整備及び広報活動	感染症に関する情報を常に校内で共有する。 A：生徒の実践的な行動が 80%達成できた B：生徒の実践的な行動が 60%達成できた C：生徒の実践的な行動が 40%達成できた D：生徒の実践的な行動が 20%達成できた	健康観察の入力状況を担任にフィードバックすることで、生徒の健康状態により関心を持ってもらえるようになった。石鹸、消毒液、体温計などの環境面の整備はされているが、換気についても徹底を図りたい。	B
進路指導 (進路指導部)	キャリア教育の一層の充実と地域貢献に積極的な社会人の育成	外部講師を積極的に活用する。 進路情報を積極的に提供する。	各学年と連携し、外部講師の積極的な活用を図る。 A：外部講師の活用が 100% B：外部講師の活用が 75%以上 C：外部講師の活用が 50%以上 D：外部講師の活用が 50%未満	地域の事業所や学校の講師に来校して頂き、進路実現に向けた説明を受けた。生徒へ向けて進路情報の提供ができた。今後各学年と連携しキャリア教育の一層の充実と進展を図りたいと考えている。	B
図書館活動 (図書館部)	図書館利用の促進のための情報発信の充実	Teams を利用して蔵書検索ができるようにする。 図書館だよりやランキング表、新刊案内等を Teams で発信する。	図書館利用の促進のための情報発信を積極的に行う。 A：図書館活動の情報発信が 100% B：図書館活動の情報発信が 70%以上 C：図書館活動の情報発信が 50%以上 D：図書館活動の情報発信が 50%未満	Teams で蔵書検索ができるようになったことにより図書のデリバリーサービスの利用が促進された。図書館だよりや新刊案内、本のリクエスト集約を Teams を利用して行ったところ図書館に関心を持つ生徒が増えた。来年度も継続して実施していきたい。	A
情報管理・情報発信 (教育情報部)	校務支援システムの運用促進 (School Engine)	校務支援システムのグループ権限を検討し、各分掌で管理運用できるようにサポートする。	校務支援システムを各分掌で管理運用する。 A：各分掌での管理運用が 100% B：各分掌での管理運用が 75%以上 C：各分掌での管理運用が 50%以上 D：各分掌での管理運用が 50%未満	校務支援システム導入の初年度で各種権限を変更しながら運用した。システムの仕様による制限があるため、各分掌の要望通りに設定することができないこともあった。今後は、一時的に権限を割り振るなどをして対応したいと考えている。	B
商業教育 (商業科)	新しい学習評価に対応できる評価方法の実践	新学習指導要領に基づき 2 年次科目の年間学習指導計画及び評価規準を作成し試行を検討する。	評価規準を作成し試行検討する。 A：評価規準を試行検討することができた B：評価規準を試行することができた C：評価規準の作成に留まった D：評価規準の作成ができなかった	9 月下旬の商業科会にて年間学習指導計画及び評価規準 (マネジメントシート) の作成講習会を行い 1 月までに各科目完成した。試行検討が十分にできていないため、次年度以降も検討していきたい。	C
総合ビジネス科	教科商業の学びを生徒が地域社会に生かすことができる取組の推進	授業にて地域社会との協働事業を設定できるように学科主任と授業担当者が連携する。	地域社会との連携授業を企画・創造する。 A：年間通して実施できた B：学期単位で実施できた C：講話のみに留まった D：実施できなかった	2・3 年生全生徒が地域社会との協働授業を通年で設定し実施することができた。次年度以降も継続的に協働授業を展開し、商品開発や豊橋商業高校の生徒が地域社会に学びを還元する授業を実施していきたい。	A

情報処理科	情報活用能力を備えビジネスで活用できる人材の育成	ICT環境・高性能PCルームの長所を生かした実践的な授業に取り組む。	実践的な授業を行う。 A：90%以上の生徒が実践的な授業に取り組んだ B：70%以上の生徒が実践的な授業に取り組んだ C：50%以上の生徒が実践的な授業に取り組んだ D：実施できなかった	3年生ではアプリ開発や情報デザインなどコースの特徴に応じて、全員が実践的学習ができた。2年生は実践的な授業ができなかったため、基礎学習においても実践を取り入れる工夫をしたい。	C
国際ビジネス科	ビジネスのグローバル化で必要とされる外国語及び経済の学力の定着	キャリアを意識し自信をもたせるための高度な資格取得の挑戦をさせる。	高度な資格取得に積極的に取り組む。 A：取り組んだ生徒が70%以上 B：取り組んだ生徒が50%以上 C：取り組んだ生徒が30%以上 D：取り組んだ生徒が30%未満	高度資格の取得に積極的に取り組んでいる生徒は約46%であった。次年度は資格取得に限らず、生徒が個々に応じた目標を設定し、学習に積極的に取り組むことができるよう指導していきたい。	C
経理科	簿記会計の役割を理解し、その能力を活用できる人材を育成する授業の実践	授業改善の実施を促進するために学科主任と科目担当者が連携する。	授業改善に取り組む。 A：取り組んだ教員が80%以上 B：取り組んだ教員が50%以上 C：取り組んだ教員が30%以上 D：取り組んだ教員が30%未満	簿記会計の能力を生徒に活用させるためにICT機器を活用し多くの教員が授業改善に取り組んだ。次年度に向けてより授業改善を行い、生徒が学習したことを活用できる授業実践にと組んでいきたい。	A
第1学年 (1年学年会)	目標を自ら考え、前向きに行動できる生徒の育成	学校の諸活動を通して、自己の目標を設定し、生徒が主体的に取り組めるよう働きかけを行う。	目標設定し、その実現に向けて主体的に取り組む。 A：取り組んでいる生徒が80%以上 B：取り組んでいる生徒が60%以上 C：取り組んでいる生徒が40%以上 D：取り組んでいる生徒が40%未満	目標に対し、取り組めたと回答した生徒は86%であった。しかし新生活への不安から目標の難易度を低く設定する生徒が多かった。次年度は達成できた生徒に対し、目標の達成基準を上げるように指導したい。	A
第2学年 (2年学年会)	継続的な自己啓発の実践	学校生活における自分自身の目標及び目標を実現するための取組方法を明確化させる。	自覚を持たせ継続的に自己啓発に努める。 A：目標を達成することができた生徒が80%以上 B：目標を達成することができた生徒が60%以上 C：目標を達成することができた生徒が40%以上 D：目標を達成することができた生徒が40%未満	学習面、行動面、部活面の観点から調査した結果、1つでも目標達成できた生徒は90%を超えた。学習面の達成率は低かったが、目標を達成する重要性は理解できているので、来年度の進路実現に繋げていきたい。	A
第3学年 (3年学年会)	主体的に進路決定し進路実現を目指す生徒の育成	主体的に進路決定し、各自の進路を実現させるために、自分で決めたことをやりきるように取り組ませる。	目標設定し、その実現に向けて主体的に取り組む。 A：取り組んでいる生徒が80%以上 B：取り組んでいる生徒が60%以上 C：取り組んでいる生徒が40%以上 D：取り組んでいる生徒が40%未満	最終学年として目標に取り組めたと回答した生徒が90%以上であった。全体として進路実現のためによく努力した。卒業後も進路先で力を発揮できるように残りの学校生活で指導したい。	A

いじめ防止対策の推進	学校いじめ防止基本方針に基づいた、いじめ防止に係る取組の充実	アンケート調査等を利用していじめの早期発見をする。いじめの発見・通報を受けたら「いじめ防止・対策委員会」にて組織的に対応する。	いじめの早期発見等に全職員で取り組む。 A：いじめの重大事態が0件 B：いじめの重大事態が1件以内 C：いじめの重大事態が2件以内 D：いじめの重大事態が3件以上	いじめの重大事態は0件であった。いじめの早期発見のため、生徒指導部を中心にアンケート調査を実施するなどした。その結果、継続性や緊急性は見当たらないと判断したが、今後も職員で情報を共有していく。	A
勤務時間の適正な管理	長時間労働による健康障害の防止	1か月の時間外労働が80時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。	公務等を削減して時間外労働時間を減らす。 A：時間外労働80時間以上が0名 B：時間外労働80時間以上が3名以内 C：時間外労働80時間以上が5名以内 D：時間外労働80時間以上が6名以上	1か月の時間外労働が80時間を超える職員の数5名であった。部活動指導や校務多忙などが主な理由である。健康障害は0件であったが、引き続き校務削減などの対策をしていく必要がある。	C
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導における授業改善の工夫について</li> <li>・基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚について</li> <li>・学習環境、学校施設等における整備状況について</li> </ul>			